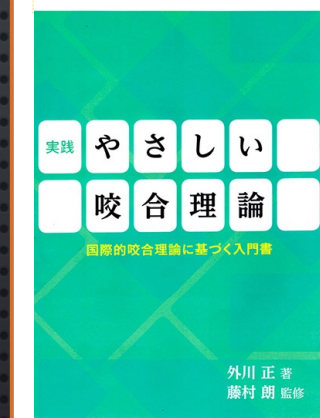


歯科開業医の談話室

- 01 上顎無歯顎印象採得
- 02 下顎無歯顎印象採得
- 03 日本人用無歯顎既製トレー
- 04 総義歯の難症例
- 05 クラスプと間接維持装置の配置
- 06 直接維持装置の設計
- 07 間接維持装置の設計
- 08 鉤歯の歯冠形態改造
- 09 大連結子の設計
- 10 根尖まで根管充填する方法
- 11 感染根管のプレパレーション
- 12 歯内療法用器具の操作方法
- 13 歯内療法器具の根管内破折防止
- 14 下顎孔伝達麻酔方法
- 15 歯科医師のための患者情報書類の書き方
- 16 半調節性咬合器の模型マウント方法
- 17 咬合理論
- 18 顎関節症

- 19 咬合病
- 20 変形性顎関節症
- 21 外側翼突筋の障害
- 22 円板後部組織の障害
- 23 中心位
- 24 中心位の採得方法
- 25 不正咬合
- 26 咬合分析
- 27 咬合調整
- 28 咬合調整のための診察・診断
- 29 咬合調整の方法
- 30 咬合調整の症例
- 31 咬合平面
- 32 咬合高径の理論
- 33 スマイルデザイン**
- 34 アンテリアガイダンス
- 35 ロングセントリック
- 36 ブラキシズム
- 37 顎関節の雑音
- 38 オクルーザルスプリント
- 39 理想咬合



この談話室の記事に関係する著書を紹介いたします。
いずれもシエン社およびアマゾンにて購入できます。

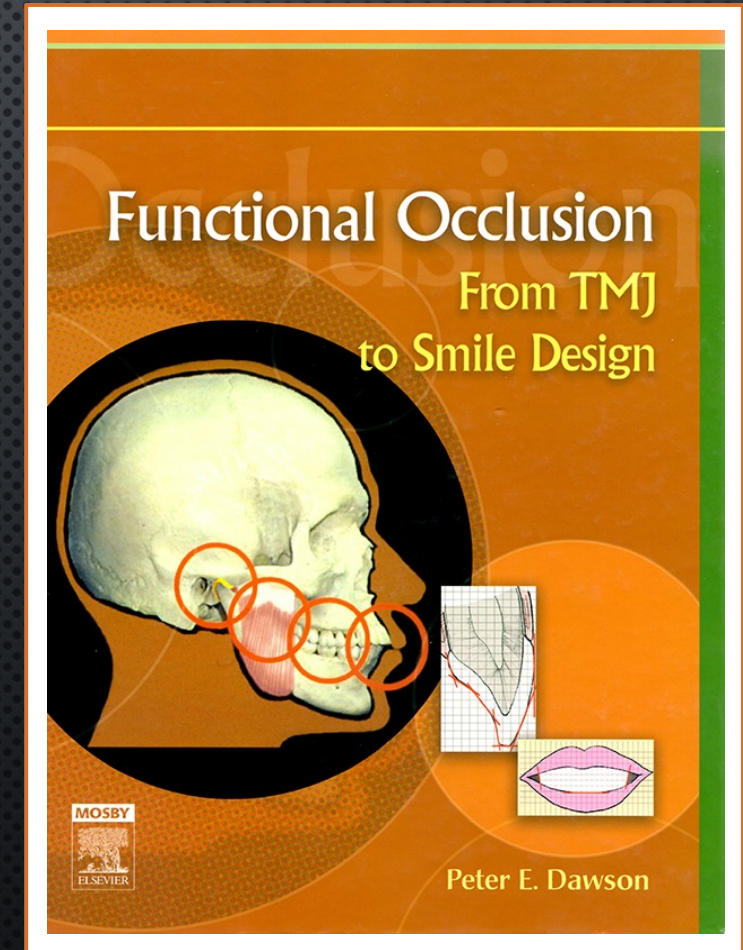


【歯科開業医の談話室 33】

スマイルデザイン ＜難しいです＞

もくじ

1. 機能的スマイルデザイン
2. 自然美学
3. スマイルデザインと診断用模型
4. 前歯修復はどこから始めるか？
 - 1) 中心位の確認
 - 2) 中心位における前歯の咬合接触
 - 3) 臼歯部即時離開
5. 形態修正の手順
 - 1) 模型の形態修正(干渉部の印記)
 - 2) 模型の形態修正(干渉部の調整)
 - 3) 模型下顎前歯の診断用ワックスアップ
 - 4) 適切な咬合接触
 - 5) 診断用ワックスアップ
 - 6) 診断用ワックスアップの印象
 - 7) プロビジョナルレストレーション装着



スマイルデザイン

1. 機能的スマイルデザイン

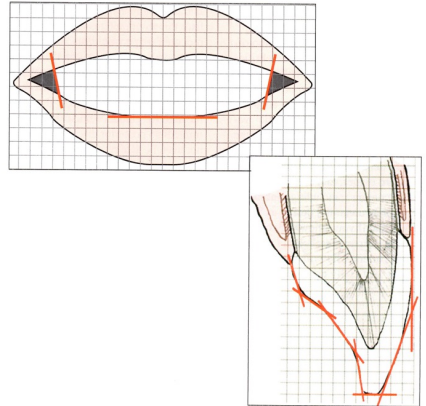
Dawsonは、スマイルデザインに関して、Functional Occlusionの第16章「機能的スマイルデザイン」として解説しております。その章の冒頭に「機能的であるほど、スマイルデザインは良くなる」と記載されております。すなわち、機能性と審美性とは関連性が深く、機能性に基づいた前歯の位置と形態が、審美的に優れた前歯デザインの基本となることを示しております。

今回は、機能性に基づいたスマイルデザインについて解説します。さらに、患者さんの外観に調和した最終的歯冠形態の決定方法を紹介します。



Chapter 16

Functional Smile Design



PRINCIPLE
The better the function, the better will be the smile design.

(Functional Occlusionより)

スマイルデザイン

2. 自然美学

Dawsonは、審美歯科に関して「自然美学」すなわち、患者さんの個性に応じた自然観に基づく美しさを提唱しております。

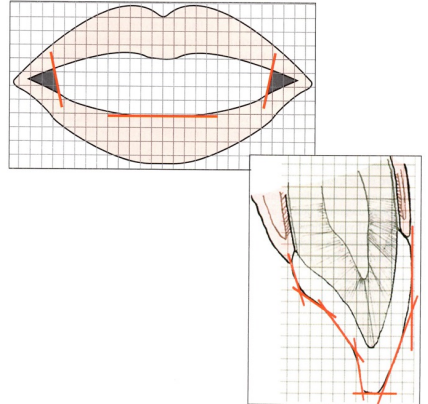
ほとんどの患者さんは、自然観のある審美的スマイルを構成する前歯を求めております。このことは、歯科医学に審美革命をもたらしております。

自然美学は、確立された基準に基づいており、決して手探りの試行錯誤による治療手段ではありません。すなわち、Dawsonは、歯の形態・位置・傾斜には明確な解剖学的基準があり、それらを理解することが大切であることを示しております。



Chapter 16

Functional Smile Design



PRINCIPLE
The better the function, the better will be the smile design.

(Functional Occlusionより)



3. スマイルデザインと診断用模型

咀嚼機能に調和し審美的スマイルデザインを達成するためには、前歯の適切な形態と位置・傾斜を決定する必要があります。

患者さんに不正咬合あるいは咬合干渉が存在する場合、前歯に適切な形態・位置・傾斜を与えることはできません。そのため、患者さんのスマイルデザインを達成するためには、半調節性咬合器に中心位でマウントした診断用模型により咬合分析を行い、咬合干渉を解消する必要があります。



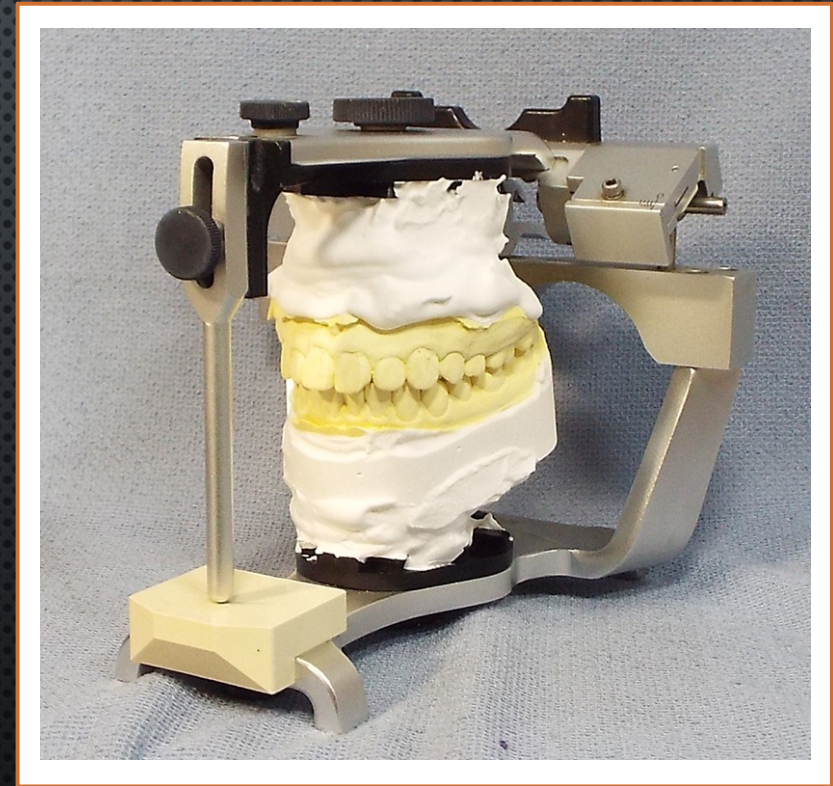


4. 前歯修復はどこから始めるか？

審美的スマイルデザインを設定する前に、以下の項目について分析し、異常所見を確認する必要があります。

- 1) 中心位の確認
- 2) 中心位における前歯の咬合接触
- 3) 臼歯部即時離開

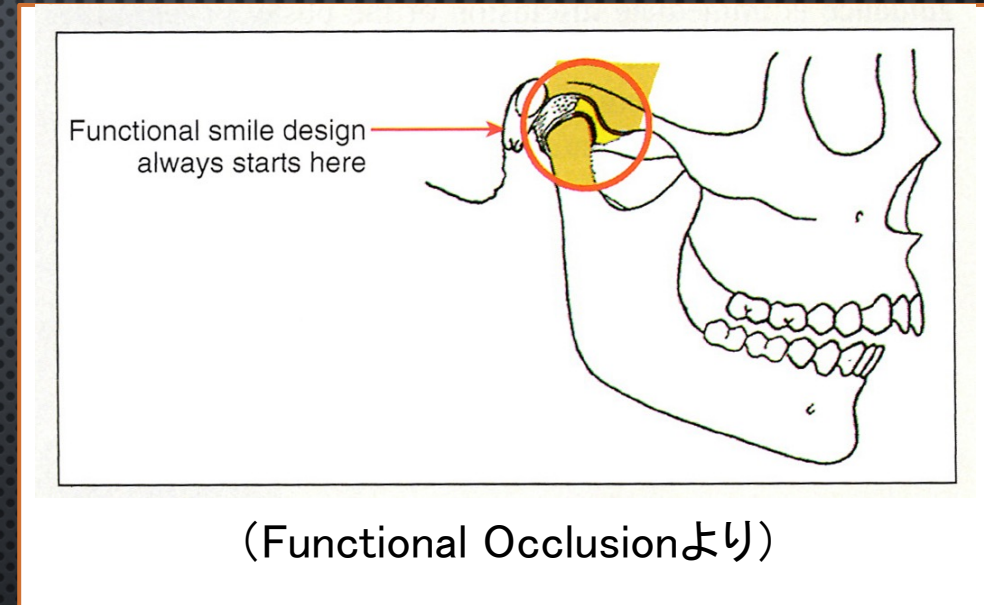
それぞれについて解説します。



スマイルデザイン



4. 前歯修復はどこから始めるか？ 1) 中心位の確認



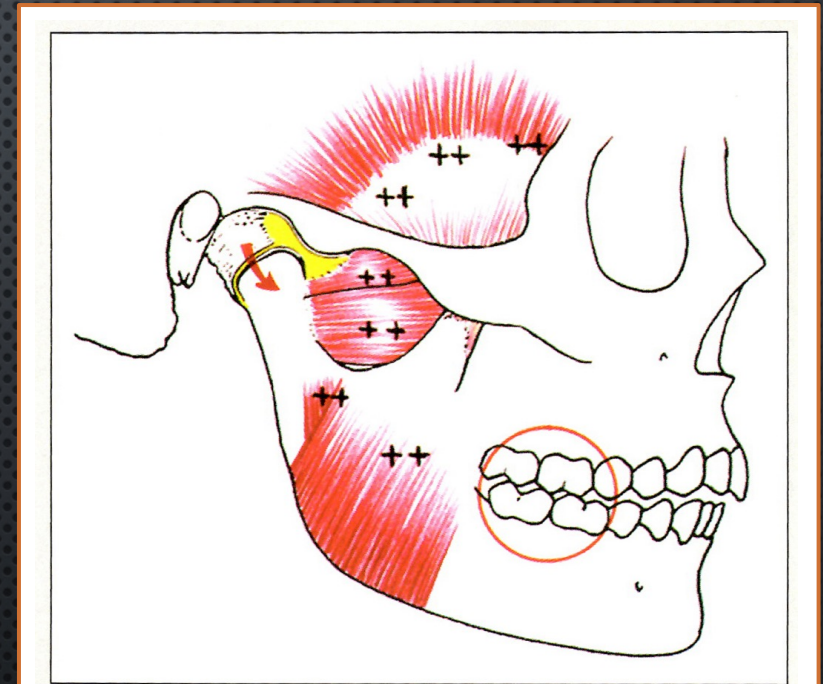
右上イラストが示すように、前歯修復を始める前に顎関節の状態を診察し、顎関節が健康で理想的な中心位に位置づけることが可能かどうかを確認する必要があります。とくに、中心位が得られたことを実証するために、荷重負荷試験を行う必要があります。もし、顎関節の異常を示す徴候が認められた場合、前歯修復の設計を行うことはできません。



4. 前歯修復はどこから始めるか？

2) 中心位における前歯の咬合接触

中心位における前歯部の咬合関係を評価する必要があります。目標は、中心位における臼歯部の干渉や早期接触のない前歯接触です。右イラストが示すように、中心位において臼歯の咬合干渉により前歯接触が得られない場合、前歯修復の設計を行うことはできません。



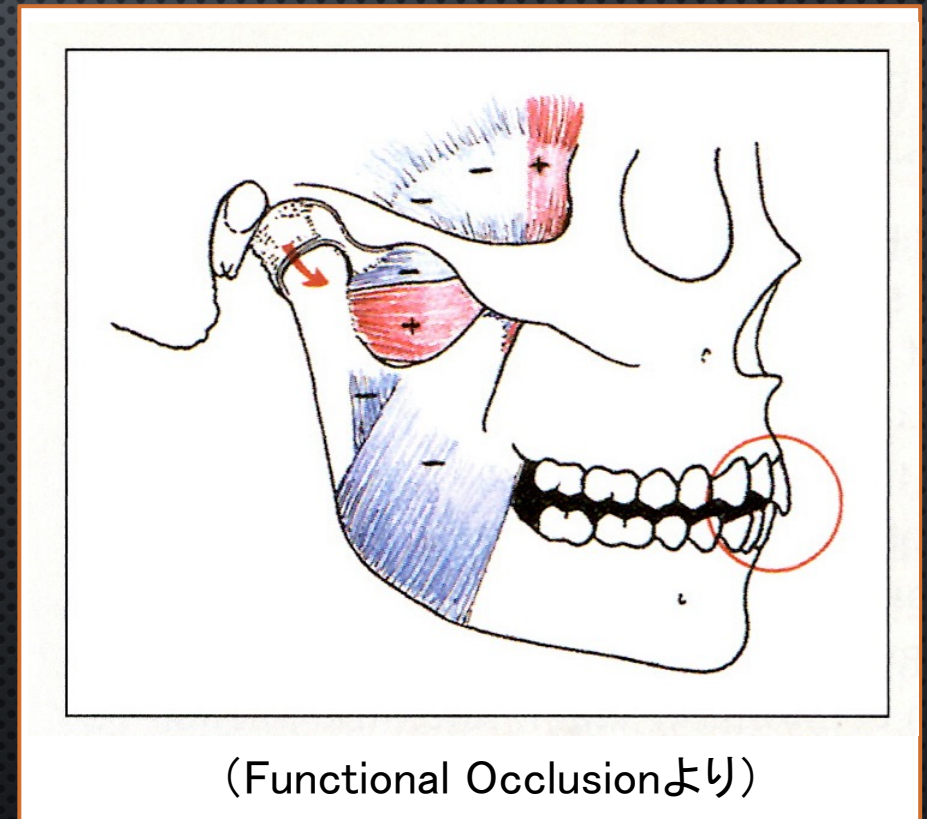
(Functional Occlusionより)



4. 前歯修復はどこから始めるか？

3) 臼歯即時離開

前歯咬合誘導のもっとも重要な機能は、下顎が中心位から移動する際の臼歯即時離開です。この臼歯即時離開は、臼歯の過剰摩耗を防ぎ、前歯へかかる力を減少させます。この臼歯即時離開を得るためには、臼歯咬合干渉のない前歯の咬合接触を設定する必要があります。

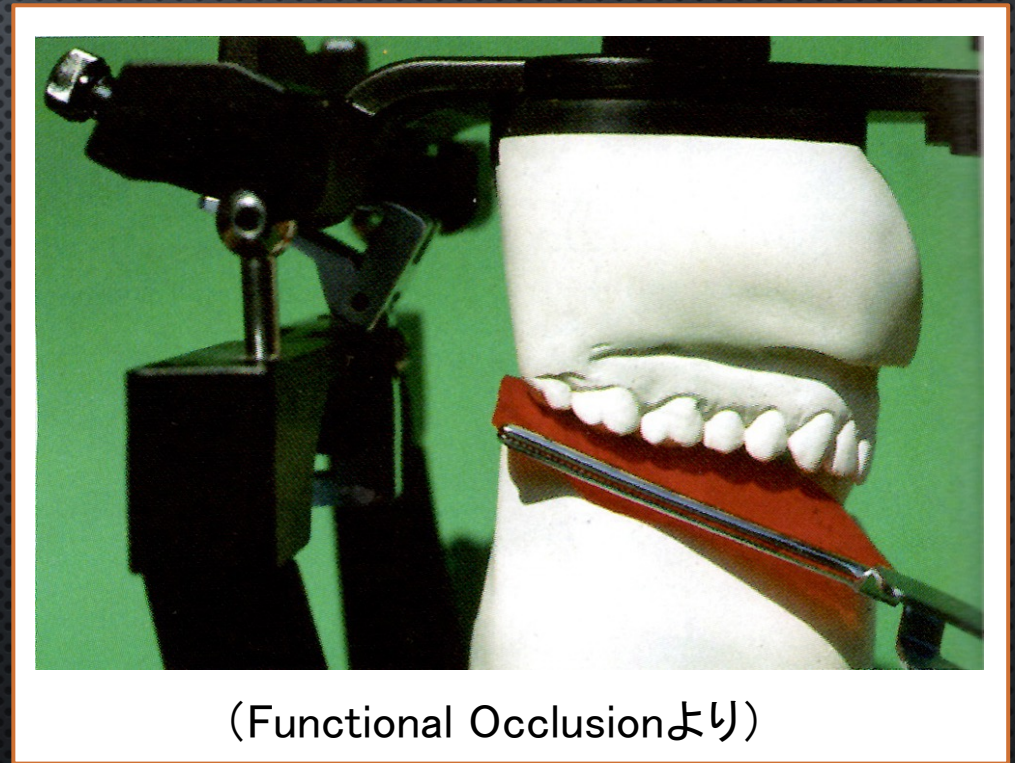




5. 形態修正の手順

1) 模型の形態修正(干渉部の印記)

右写真が示すように、臼歯部の咬合分析は、中心位で装着した模型を用いて行うことができます。咬合紙は、中心位での前歯接触を妨げる干渉部を印記するのに用いられます。咬合器は、この段階ではセントリックロックを掛けておくべきです。



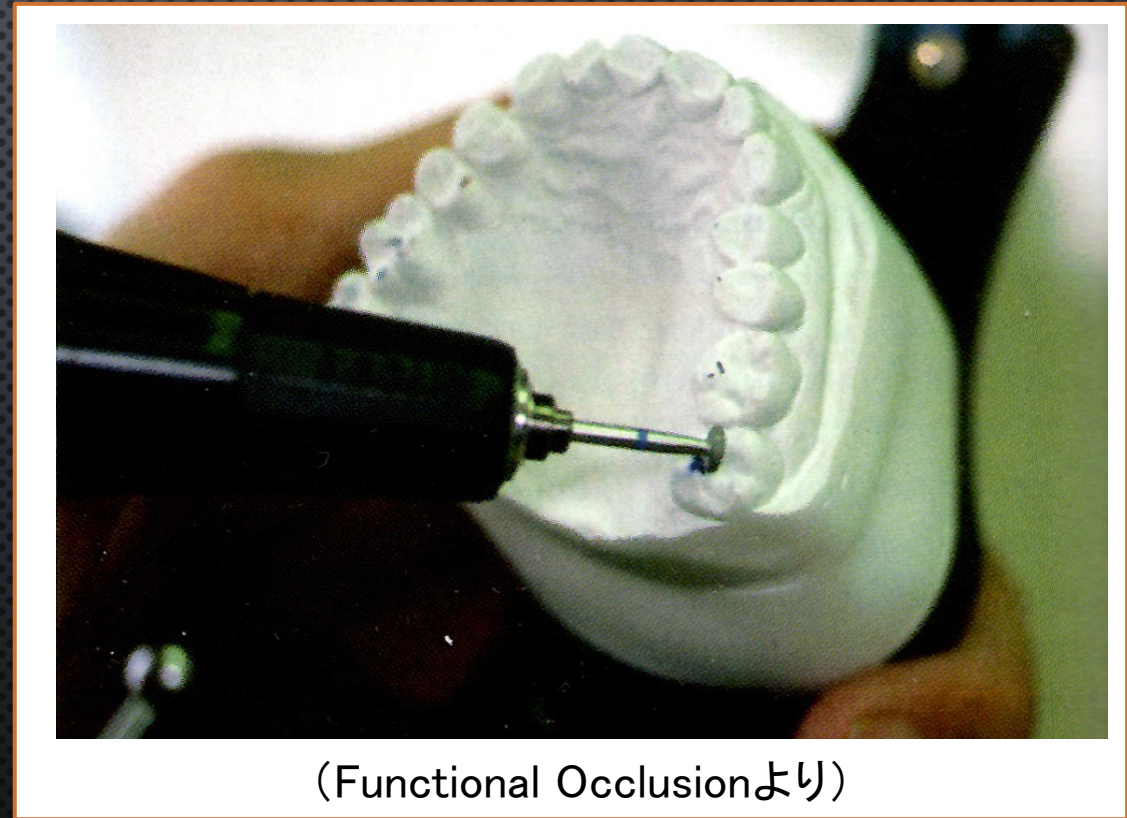
(Functional Occlusionより)



5. 形態修正の手順

2) 模型の形態修正(干渉部の調整)

右写真が示すように、咬合調整による形態修正が最良の選択肢とされた場合、臼歯の咬合調整を行うことで咬合高径を低くして、中心位において前歯が接触するようにします。



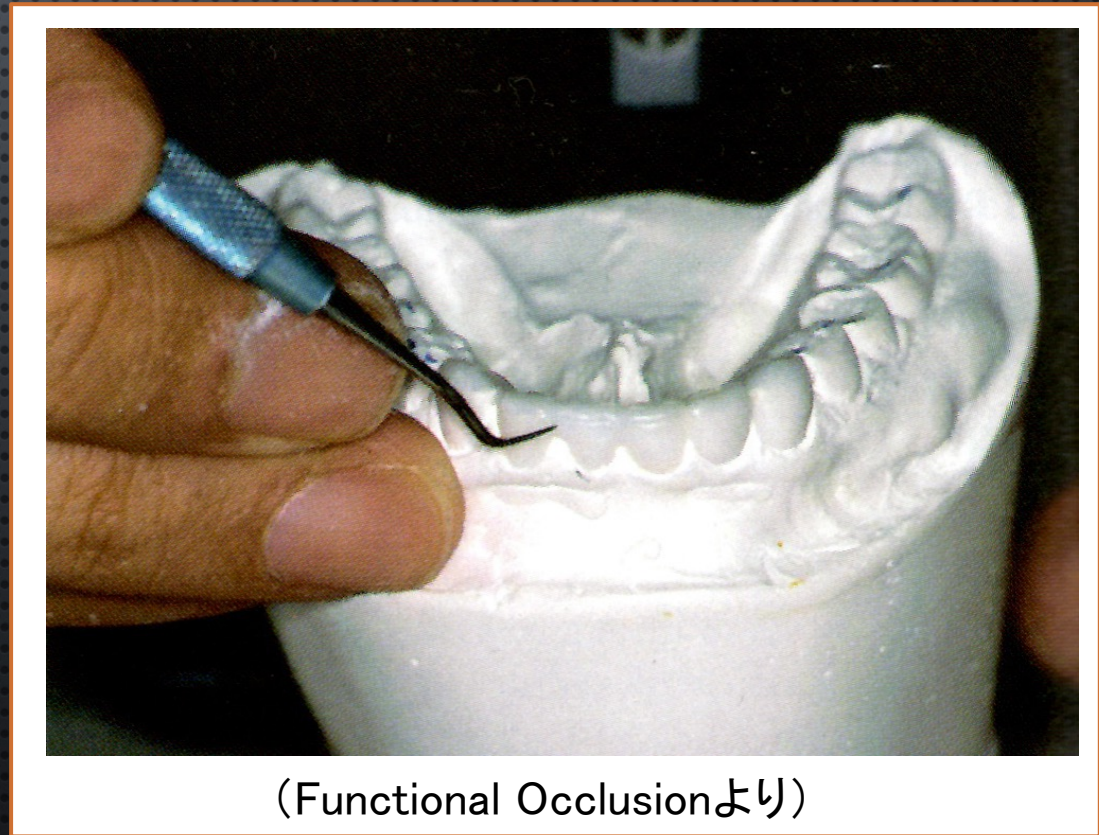
(Functional Occlusionより)



5. 形態修正の手順

3) 模型下顎前歯の診断用ワックスアップ

右の写真が示す下顎前歯の診断用ワックスアップは、中心位の前歯接触を得るために、どのような修復が必要かを明確にします。



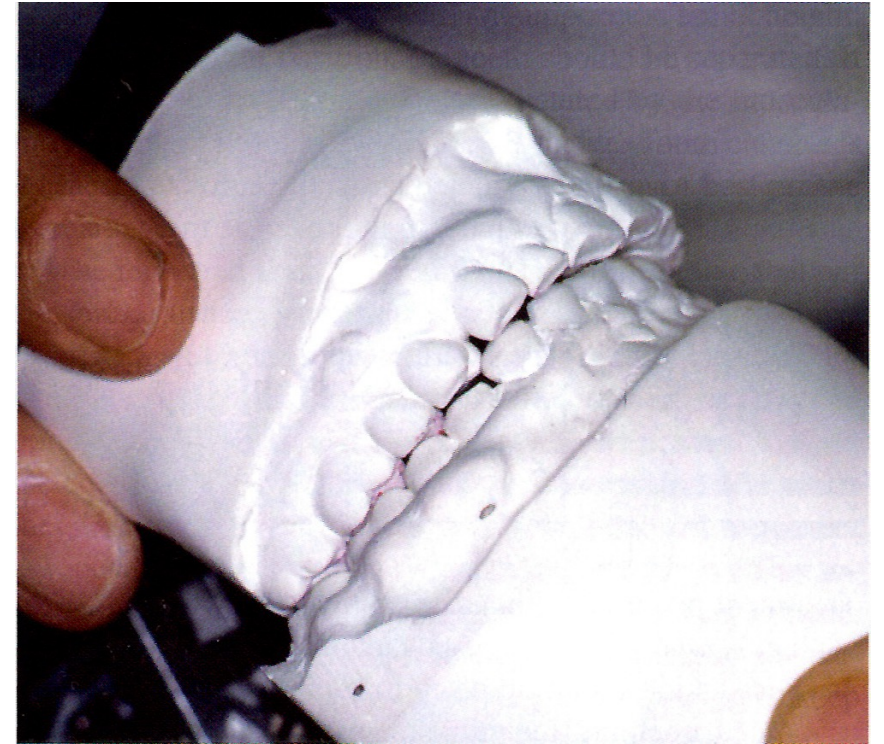
(Functional Occlusionより)



5. 形態修正の手順

4) 適切な咬合接触

右の写真が示すように、模型の臼歯咬合調整と下顎前歯のワックスアップにより、適切な咬合接触状態を決定することができます。



(Functional Occlusionより)



スマイルデザイン

5. 形態修正の手順

5) 診断用ワックスアップ

右の写真は、完成した診断用ワックスアップです。診断用ワックスアップは前歯の最終形態ではありません。この診断用ワックスアップは、プロビジョナルレストレーションを製作する基準として使用されます。切歯切端、唇側豊隆、アンテリアルガイダンスなどの位置と形態は、装着したプロビジョナルレストレーションを調整して口腔内にて決定します。



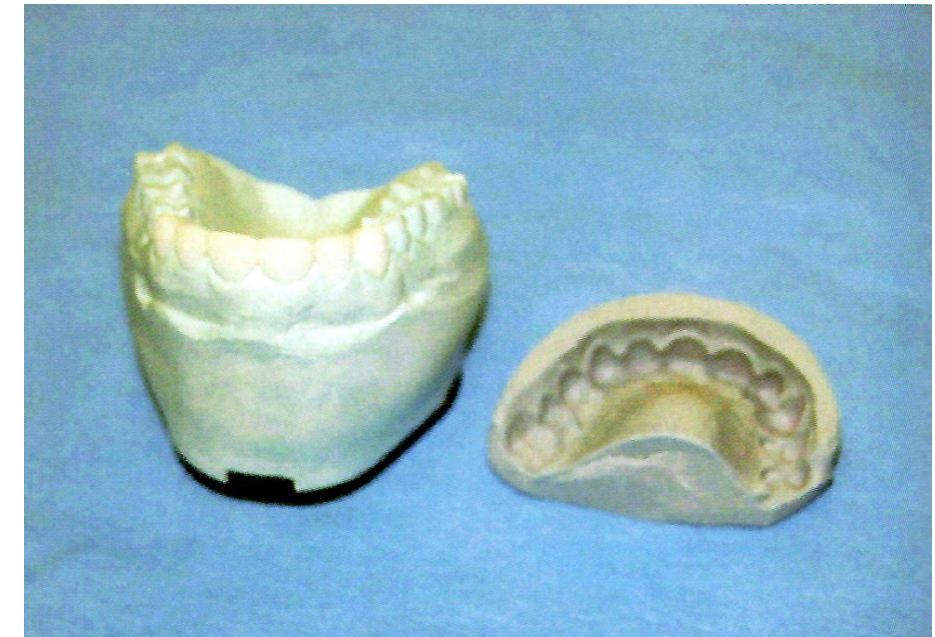
(Functional Occlusionより)



5. 形態修正の手順

6) 診断用ワックスアップの印象

診断用ワックスアップにより、前歯のおおよその位置と形態を把握することができます。右の写真に示すように、シリコーン印象材を使用して診断用ワックスアップを印象します。その印象は、プロビジョナルレストレーションの製作に使用します。



(Functional Occlusionより)



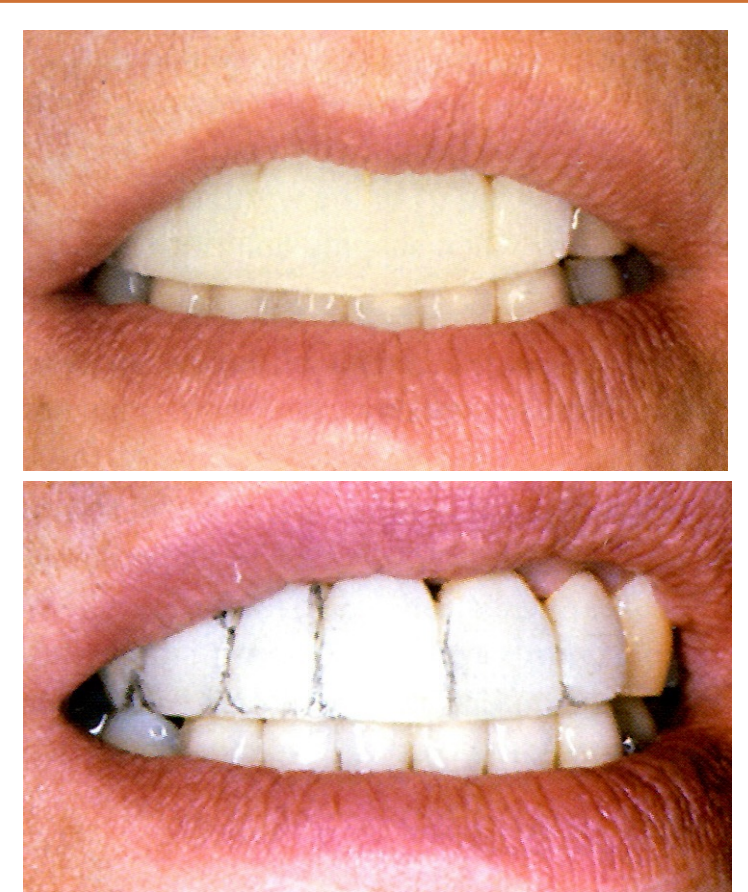
5. 形態修正の手順

7) プロビジョナルレストレーション装着

プロビジョナルレストレーションを装着するときに、患者さんに以下のことを伝えます。

「この仮歯について、どのような感じがするかよく見てください。快適でなかったり、発音に支障があったり、外見が気に入らなければお知らせください。気に入らないところは修正することができます。」

プロビジョナルレストレーションを患者さんに装着することにより、口唇との調和・発音機能・快適性・スマイル外観への影響などを分析し、最終的歯冠形態を決定します。



(Functional Occlusionより)

【歯科開業医の談話室 33】

スマイルデザイン

参考文献

- 1)保母須弥也:咬合学事典、書林、東京、1979.
- 2)Peter E. Dawson : Functional Occlusion From TMJ to Smile Design, MOSBY, St. Louis, 2007.
- 3)外川正:入門顎関節症治療のための咬合分析と診断、金原出版、東京、2009.
- 4)外川正, 武田泰典, 加藤貞文, 阿部 隆, 千葉健一, 水間謙三, 岡田 弘:いわゆる「顎関節症」から分離して扱うべき疾患—とくに隣接医科との整合性を考慮して—, 日本歯科評論, 624:171~180, 1994.
- 5)Niles F. Guichet : Occlusion, Anaheim, Calif. , 1977.
- 6)最新医学大辞典, 医歯薬出版, 東京, 1987.
- 7)福井次矢:内科診断学第2版、医学書院、東京、2008.
- 8)Okeson JP : Long-term treatment of disk-interference disorders of the TMJ with anterior repositioning occlusal splints. J Prosthet Dent 1988 ; 60 : 611-616.
- 9)Dawson PE : Bad advice from flawed research. AGD Impact April : 30-31, 1995.

今回のテーマを気に入っていただければ👍をクリックしてください。
質問あるいは疑問がある方は、下の公開コメント欄にお書き下さい。
よろしければチャンネル登録をお願いいたします。

次回のテーマは、歯科開業医の談話室34番目「アンテリアガイダンス」です。

その他の著書

